

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100552		
法人名	社会福祉法人 白富会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 ひまわり園		
所在地	熊本県熊本市長嶺東3丁目3-70		
自己評価作成日	平成22年1月5日	評価結果市町村受理日	平成22年2月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本県熊本市南熊本3丁目13-12-205
訪問調査日	平成22年1月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく広いスペースで落ち着いた生活が出来ます。ホームの近くに小学校もあり、登下校時や運動場での活動時に児童の声が聞こえ、元気な声に入居者の笑顔もほころびます。毎月、入居者お一人々のホームでの生活を「ひまわり通信」にてご家族へ安心をお伝えしています。家庭菜園もあり、好きな方は楽しむことが出来、収穫のときにはみんなで喜びあって季節の食べ物を食しあっています。職員の元気も大切にしながら、入居者お一人々に楽しく目標のある生活が継続出来るように努め、笑顔でゆとりのあるケアを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

居室から望む阿蘇の山々や、静かな住宅地の中で近隣小学校の賑やかな学童の声が聞こえる環境は職員の個々を大切にしたいケアと併せ、共同生活中で”今”を生きる入居者に刺激や安らぎを与えているといっても過言ではない。運営推進会議や社協主催の”一日会”から得た情報から無償ボランティアによる散髪支援など友好的協力が得られている。「入居者からプランを教えてもらっている。」と語る、管理者は穏やかさの中にも与えられたこの福祉の現場で日進月歩で常に”今”を意識し大切な時間として、職員と共有していきたいと語り、問題や困難が生じた時こそ原点に戻りたいとしている。入居者と職員の笑い声が高いリビングホールに響き渡り、「愛・ときめき・かがやき・美しく」の理念が職員の中に確かなものとなり入居者を支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設のよく見える場所に掲げ、ご家族等にアピールしている。	母体施設理念を規範とし、ホーム独自の理念を掲げ玄関や調理室など目に触れる場所に掲示し立ち返りをしている。理念の言葉の意味するものが入居者に伝わるようなケアを目指したいとして勉強会などで話し合い共通認識をもって取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的にある地域の一日会へ参加し、地域校区社協の方々や各事業所の方との情報交換を行う場への参加をしている。	社協主催の校区の集まり“一日会”には主に管理者が出席し、他事業所と地域行事の収集やボランティアに関する情報交換の場となっている。ホーム主催の夏祭りには近隣に参加を呼び掛けたり、小学生が立ち寄るなど交流が図られている。	今年度はインフルエンザの影響で地域にでることができなかったが、今後は運営推進会議や“一日会”で得た地域行事への参加や近隣者と日常的な交流ができるような取組が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、各職員が研修を受け、認知症への理解を深めている。地域の方に向けての対応は今後実施を予定している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の割合で会議を行い、参加者との意見交換時にアドバイス等を受けると共に、取り組み状況を報告している。	併設小規模多機能と合同で二か月に一度と定例化した会議には地域住民代表者も会議メンバーとなり、ホーム運営に生かされる内容が検討・展開されている。事故やインフルエンザなど安全対策に関する意見や提案では、安全対策委員会や教育委員会により、検討や研修会を行い改善に向けた活動に繋がった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議録をその都度市へ送付し、状況報告を行っている。又、困った時は直接電話連絡にて相談を行っています。	毎回、運営推進会議録を市担当者に送付することで、ホームの現況を知ってもらい必要に応じてはその都度電話相談を行い改善に繋げるなど良好な関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全対策委員会の設け、身体拘束をしないケアの検討等を行っている。身体拘束をしない取組を心がけていますが、安全を確保するためにやむを得ず対応しなければならぬ場合は、家族と協議し、同意の元で行う様にしています。	安全対策委員会の設置により、勉強会を開催し事例を通し共有に繋げ拘束のないケアに取り組んでいる。安全確保のためやむをえず実施する場合(転用予防のベットの柵など)は家族に十分な説明と同意のもと行う様になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	安全対策委員会にて話し合いの場は設けていますが、具体的な対応策までは、今後検討していく予定です。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	契約締結時には、各書類の内容を説明し、家族等に同意を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、各書類の内容を説明し、家族等に同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族からの直接的なアドバイスをにて運営への反映に努めています。	運営推進会議や訪問時を意見・要望を聞く機会とし、出された意見については運営者も含め対策に向け話合っている。新年度に家族会を開催予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で各職員からの意見を取り入れ反映しています。	職員会議を意見や要望を聞く機会としているが、管理者は日常的にも意見の言いやすい関係・雰囲気作りを心掛けている。出された意見に対しては運営者を交え意見交換し実践に繋げている。季節を味わいながら家族との交流を深めたいという要望に対して、“秋刀魚バーベキュー会”の実施や個々を大切にした居室作りとして、職員のアイデアによる手作り表札などの取り組みが行われた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議等において、業務の見直し等を行い、働き安い		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを推進している	法人内外での研修への参加を促し、スキルアップへの支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、認知症リーダー研修への参加をし、他の事業者との情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本位に努め、関わりをもって対応しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には、本人、家族との面談を行い意向や相談等を伺っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。相談の際に、グループホーム以外のサービスを必要としている方には、そちらのサービスを勧めたりしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理を教わったり、昔の風習や思い出話を聞いたりしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族とのコミュニケーションを大切に、不定期ですが、生活の様子を手紙にして家族へ伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出等において、健康状態が安定されていれば自由に出来、面会も大きな制限は決めておらず、本人と家族にて自由な対応が希望出来る様対応している。	家族によりこれまでの理美容支援や、外食・正月や親類の集まり・墓参のための外出が行われている。又家族や知人がホームを訪れる際にはゆっくり過ごしていただくよう、職員の対応や居室・リビング・談話室など希望に応じた面会場所にも配慮し支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めています。利用者同士の会話の時や、利用者同士が助け合っている時は、見守っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院をされた時や、入院で退所された際も面会に行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めています。本人にどう過ごしたいか聞きながら行っています。ケアプラン作成時も本人の意向を聞いています。	入居者を職員の担当制とし、会話や日々のケアを通し希望や意向の把握に努めてる。又、家族からも訪問時や必要に応じては電話連絡を行っている。介護相談員の訪問も入居者の思いや意向の把握に繋がっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前には、本人、家族との面談を行い生活状況を伺うことに努めていますが、入所後も本人とのコミュニケーション時に昔の話をし、以前の生活状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めています。カンファレンスを活用し、職員同士での検討もしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	努めています。カンファレンスを活用し、職員同士での検討もしています。	本人・家族の意向を大切に担当職員を中心とし他の職員の気づきや医師の意見もプランに反映させている。入居者全員の支援方法を具体的にまとめ集約した“個別活動ケアプラン表”を作成し職員が共有して取り組む体制をとっている。計画担当者は今後も“利用者からプランを教えてもらう気持ち”を大切に入居者・家族にわかりやすい説明・話し合いを心掛けたいとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のカルテに記録している。又、カンファレンスを行い、情報の共有にも努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に、柔軟に対応することに心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の残存機能を理解し、意向や要望を理解しながら安全な生活が継続出来る様対応しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からかかりつけをもっていらっしやった所への受診を引き続き受けられる様対応しています。その中で、かかりつけ医を変更希望された場合は新しいところへの対応を行っています。	入居前のかかりつけ医を引き続き受診出来る事や協力医院の説明を行っている。協力医に関しては月二回の往診が行われ、他の医療機関に家族対応の場合も、ホームと家族が情報を共有し入居者の健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	その都度、看護師に相談し異常時に対応を依頼しています。又、医療的な部分への対応に関し、看護師の指示の元対応している部分もあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会を行い、経過を観察し退院に向けて、担当Nsから情報収集を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を設けており、入所時には家族や本人に説明をし、同意を得ています。	ホームとして終末期に向けた指針を作成し、入居時に説明を行なっている。家族や主治医との連携で要望に応じ重度化や終末期を支えたいとしている。	終末期ケアに関しては、職員の意志の統一のもと、必要に応じた勉強会の実施や継続的な家族の意向確認が必要と思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急隊をむかえての講義を受けたり、職員間での勉強会を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会で訓練や、自主的な訓練を実施しています。	一階多機能ホームと合同で自主訓練や、消防署立ち会いの消火・避難訓練を実施し訓練後のアドバイスや職員での反省を出し合い全職員が非難に対する意識を高め、救急隊の指導により緊急対応やAEDの使用方法を学ぶなど緊急の際の対応を共有している。	今後は運営推進会議の中で、訓練の予定や計画を報告し、地域の方の参加が得られる働きかけが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ、入浴などの誘導時の声かけは、他の入居者に聞こえない様に、本人に理解させて誘導しています。又、丁寧な言葉かけにも注意しています。	入浴や排泄の誘導・声掛けもプライバシーに配慮し、又、個々に応じた対応が実践できているか職員間で常に確認し合っている。訪問当日も入居者に合わせた排泄誘導や、入室の際のノック等も確認された。昨年の外部評価や市の指導により面会簿の見直しを行ない個別ノートを作成しプライバシーの確保に繋げた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度、本人の意向を聞き、本人が望まれることへの対応に心がけている。その他、色々な場面で希望を現わされる様に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行動を起こされる時は、まず、ご本人の意思を尊重できる様に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カットボランティアの受け入れや、月に1度、出張理容を行っている。本人の希望に応じて美容室にも行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	支度や洗い物など、積極的に手伝って頂く方には、習慣的に手伝って頂いています。また、行事食など、定期的に計画し、入居者の方とスタッフと一緒に楽しんでいます。	外注調理食とホームで準備した食材での調理となっている。菜園で採れたての野菜が加わることもある。調理室からの匂いが心地よく感じ取れる食堂リビングで、入居者はテーブル拭きや下ごしらえなどできることを手伝っている。現在は食事介助の入居者が多く、一緒に食事を採るにはいたっていない。	献立表を面会の家族が目を通しやすい場所に設置することで、家族の安心や訪問の際の楽しい食事支援の会話にも繋がっていくことが期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量をチェックしています。一人ひとりに応じた食材の工夫(刻み・全粥など)しており、摂取量の少ない方へは、栄養剤等も併用しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っています。一人ひとりに応じた介助を行っています。義歯の方は、2回/W洗浄剤を使い洗浄への対応をしています。又、みがき残しがある場合は介助をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、トイレ誘導を行っています。一人ひとりの排泄パターンを把握し、介助を行っています。	排泄チェック表によりパターンを把握し、声の掛け方やタイミングなど職員で共有し個々にあったトイレ誘導を行っている。居室にポータブルトイレを設置されている方へも毎日の洗浄・消毒により清潔に管理する事で気持ちよい排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の確認を行い、食事のメニューを工夫しています。下剤を投与しコントロールを図っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は決めています、一人ひとりの希望にあわせ、柔軟に対応しています。	午前・午後の入浴を希望や通院などの状況に合わせて対応し、拒否の場合もタイミングや声かけにより間隔が空かないように支援し清潔保持に努めている。苜蒲や柚子湯など季節風呂の支援も楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後の昼寝等を取り入れ、就寝時間はおおむね決めています、一人ひとりの時間を柔軟に対応するようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を各入居者のファイルに入れ確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご飯の盛り付け、畑の野菜の収穫など、利用者にあった支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩コースがあり、その日によってコースを決めています。又、施設の畑を見に出たりもしています。	天候や入居者の体調・希望に応じ近隣の散歩や菜園の手入れ・収穫、併設施設(ケアハウス)への交流を楽しんでいる。又、ケアハウスの車を借りドライブを兼ねてクリスマス・イルミネーション見学や神社参拝など季節に応じた外出を実施している。	インフルエンザの影響もあり日常的な外出が困難な点は、デッキでの散歩や軽運動に努めたとの事である。これから外出が楽しめる季節に向っていため入居者の外出支援に繋がる事が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品の購入に関しては預かり金にて対応していますが、本人がお金を管理されたい場合は、家族の判断にて少額持参されていらっしゃる方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望された場合、対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は天井が高く、開放感があります。南向きに面しており、日当たりはいいです。又、近くに小学校があり、窓を開けると、子供達の声が聞こえる時もあります。施設の前には、畑もあり、好きな方は菜園での活動も出来ます。	空間を大切に食堂・リビングは趣味の編み物や食事をしたり、入居者同士で談笑するコタツスペースが設けられ寛ぎの場となっている。デッキでは近隣小学校からの賑やかな声を聞きながら、日光浴や軽運動をしたり、お茶を楽しんでいる。すべての共用空間は清潔に保たれ居心地の良さに繋がっている。	花や植物等季節に応じた玄関入り口の対応や、天井の高いリビングは音の響きも大きくなる為、レクリエーション時のテレビの使用については検討が必要と思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール以外にもソファやこたつを設置しており、気分によって好きな場所が利用できる様にしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にも協力をお願いし、ご本人がご自宅で使っていた物等を持参して頂き、各々の工夫された落ち着いた部屋づくりに努めています。	居室にはベット・エアコン・洗面台が設置され、換気や掃除も徹底し、入居者の馴染みの品やカレンダー・家族の写真等が持ち込まれ思いが詰まった居室となっている。担当者による居室入口のネームプレートは一つずつ異なり個々を大切にホームの取組みが窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり、各通路やトイレ、浴室に手すりを設置しています。		